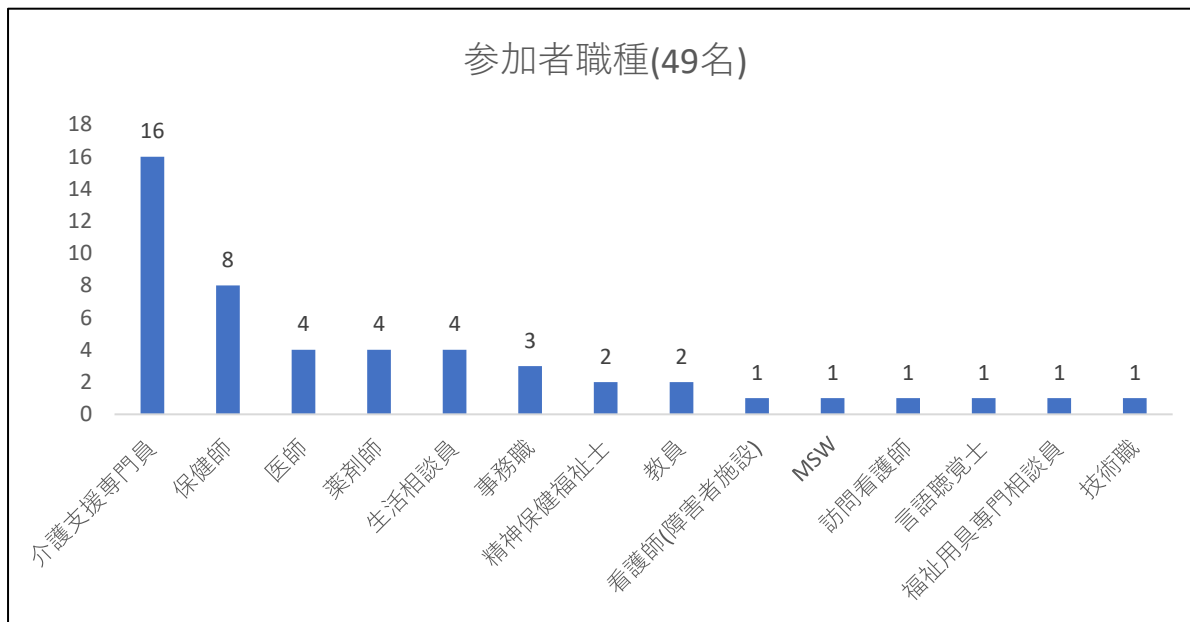
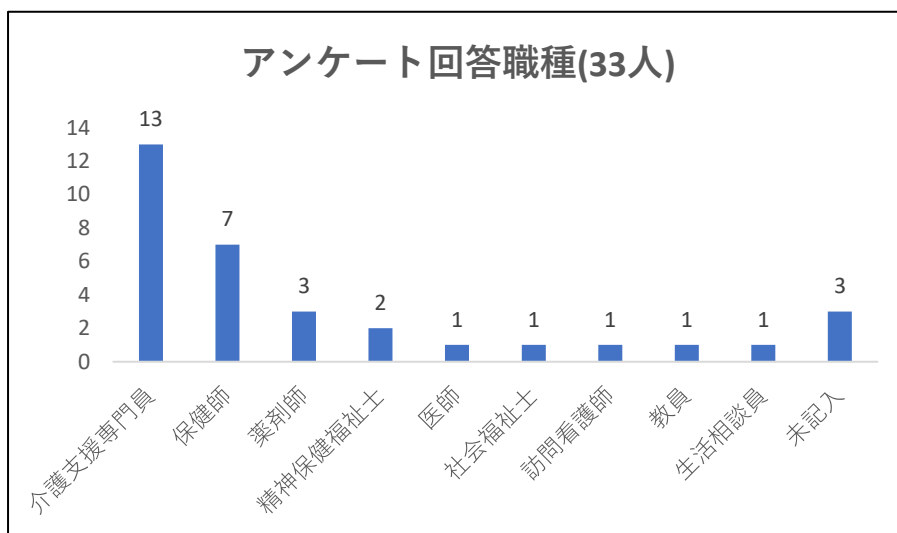


令和5年度第1回在宅医療・介護人材育成研修会 研修後アンケート集計結果

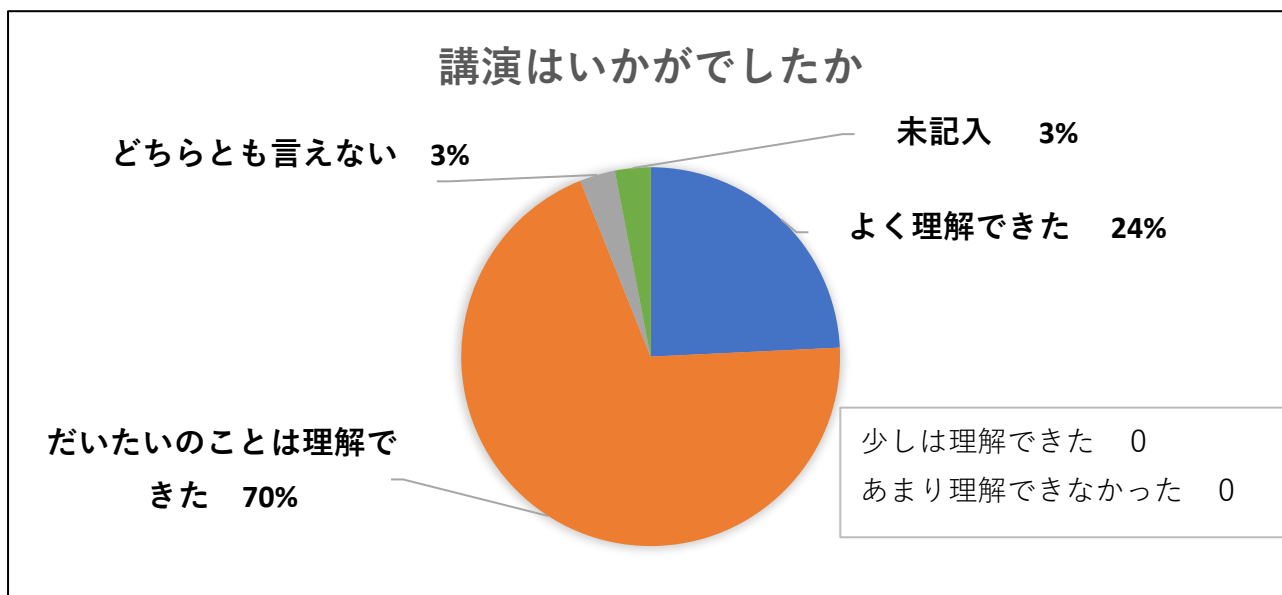
◆参加者数 49名(会場参加26名、ZOOM参加23名)



◆アンケート回答数 33人(回収率67%) (会場参加19人、ZOOM参加14人)



◆本日の講演はいかがでしたか。

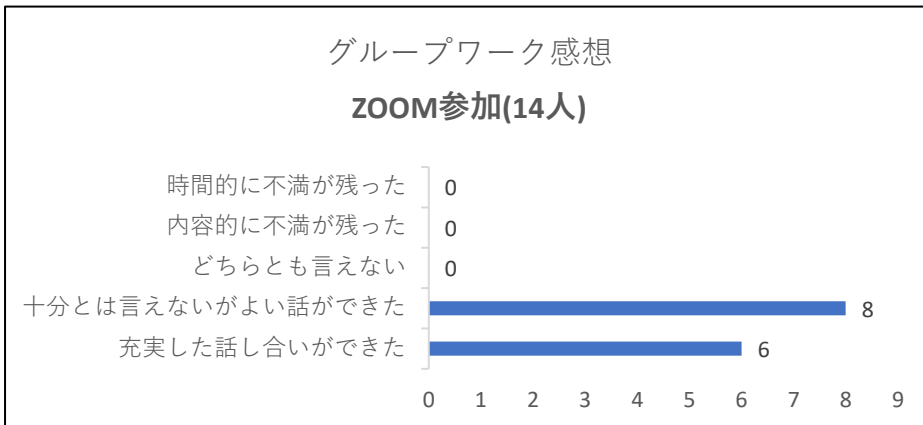
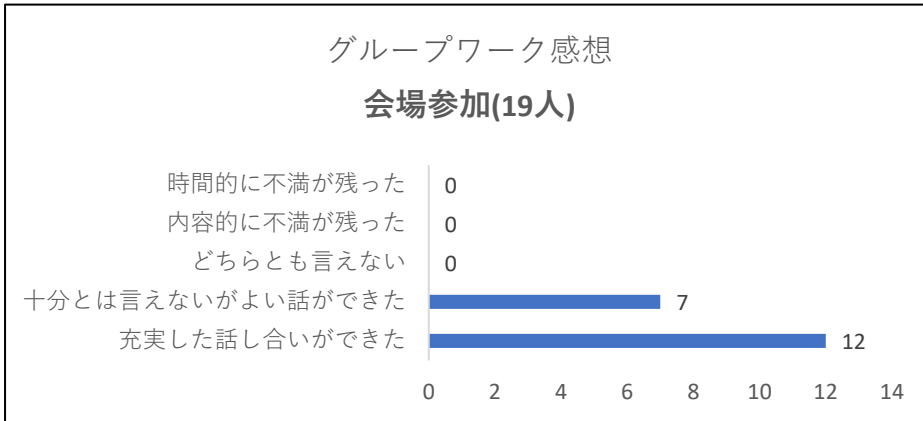


◆地域での障害者支援を一步進めていくために必要なことは何だと感じられますか。

- ・特別扱いしないこと。障害サービス提供サイドが介護保険を理解すること。(保健師)
- ・とにかく関わる人をそれぞれの分野から集まってもらいみんなで支える。知り得た情報は共有する。今回のように統合失調症などの病気がある場合は、まずその病気の症状の安定化が第一だと思う。精神科あるいはその他の病院にかかっている場合(今回は透析の病院)で連絡を取り合うことが必要と思う。(訪看)
- ・それぞれの障害の特性を理解すること。支援する中で困っていることがあれば関係者で話し合うこと。年齢や障害だけで支援者をわけないこと。(PSW)
- ・顔の見える関係を作っていくこと。障害のサービスについて知識が必要だと思った。障害→介護への移行の難しさを感じるため、それぞれのサービスについて知識、理解を深めることが必要と感じている。(CM)
- ・多職種との連携(顔の見える関係性構築)。研修会での知識習得。(薬剤師)
- ・今回のテーマに関する知識がそもそも少ないため、制度について知ることが大切だと感じた。(薬剤師)
- ・職種を超えた横のつながりを強くすること。複数の人で一人の方を担当できるようにし、担当する人の負担を減らせるようにする。テンプレートも必要だがその人その場に合わせた形の支援を考える。(薬剤師)
- ・一般病院としては直接支援することは少ないですか、本人・家族が病気になったり、入院したりすることを機会として、ひきこもりや障害が分かることがあると思います。そういった場合にきちんと専門の窓口につなぐことが大切だと思った。
- ・障害者についての理解度は、立場や経験によって随分違うように感じます。今回のような研修機会やケースカンファレンスの積み重ねでしょうか。(医師)
- ・現行のサービスでは対応することのできない狭間のサービスや地域での見守りが必要だと感じます。ただ精神疾患の方は状態によっては、地域の方が今回のケースのように負担に感じられる場合もあり、サポートが難しいですね。(保健師)
- ・地域住民の病気や障害の理解やその人の理解。多職種連携。(CM)
- ・多職種連携と情報提供が必要ですが、みんながバラバラに支援するのではなく、共通認識を持ち役割分担をすることが必要。分からないので支援ができない。どのように支援していけばよいかの勉強会へ参加し、知識を深めることも必要。(CM)
- ・知ること。障害のこと、その人のこと、取り巻く環境、使える資源など。「〇〇だから××」な結論ありきでは難しいことが沢山あるように思います。(PSW)
- ・住民含め障害(者)に対しての正しい理解。(教員)
- ・多職種の連携。本人・家族を知ること。(保健師)
- ・お互いの理解と多職種連携(保健師)
- ・多職種で連携し、理解していくことや情報を共有し抱え込まないことが大事。(CM)
- ・自立支援協議会で、支援や体制について協議をしっかりとっていく。(保健師)
- ・障害や病気の理解と多職種連携。(CM)
- ・連携。精神、普通の介護、医療(医療も精神とそれ以外)との連携。病院から栄養士や ST までの出前講演などを通して対応力を上げる。(不明)
- ・多職種の人の関わり、たくさんの人の関わりが必要。相談する人がたくさん必要。(CM)
- ・支援者が制度や現状について理解し、障害者やその家族全体を支援していく。(CM)
- ・連携、情報共有、情報交換(CM)
- ・各機関が一步ずつ踏み込んでできることをする。本人・家族の意見をよく聞く。自立支援協議会での協議。地域の課題を協議することを続けていく。時と場合によってはこの会とリンクするとか。(PHN)
- ・様々な職種の人と話をしたり、聞いていくことで新たな知識や情報につながったので、連携をしていくことが大切だと感じた。(小規模多機能 CM)
- ・当事者や家族の体験を聴くこと。アウトリーチのしくみを整える。まだ十分とは言えないと思う。(不明)

- ・情報共有(生活相談員)
- ・また今回のような機会があれば参加したい。障害者支援を進めるには支援者が様々なケースに慣れることが大事だと思います。(保健師)
- ・いろいろな人でサポートしていくことだと思いました。(CM)
- ・障害者、介護のお互いが、制度や働いている方の理解をして、利用者さんのため、地域のための視点を持って協力すること。(CM)
- ・障害支援の理解や担当者との連携をしっかりと行い、早めの対応ができるようにする。スムーズな移行(本人や家族が戸惑わないような)ができるように。(CM)

◆グループワークの感想



★「充実した話し合いができた」を選んだ理由

《会場参加》

- ・(会場で)顔を見て話すことができ、やっぱりグループワークは良いと感じた。
- ・3人の少ないグループで、ファシリテーターも一緒に意見をお伝えできて時間もしっかりあったので良かったです。
- ・いろいろな意見が出て、充実した話し合いができました。
- ・このような多職種で話す機会はとても大切だなと感じました。それぞれの考えていることを知り、勉強になりますし、顔見知りになることで声もかけやすくなるなどと思います。
- ・なかなか事例の情報が少なかったけれどグループでの意見の交換、交流することができたことは良かったです。
- ・みな一人一人が積極的に意見を言っていた。
- ・それぞれの立場からの意見が出たのでよかったです。
- ・いろいろな職種と話し合いができたので。
- ・様々な意見から多くの視点を共有できた。

《ZOOM参加》

- ・地域へ出向く職種が増えていくことは地域で生活していく上ではありがたいです。

- ・さきがけのMSW、薬剤師、ST、訪看Nsとそれぞれの立場での意見が聞けてとても勉強になった。
- ・多職種の方とグループワークをすることで薬局としてどのようにサポートできるか再確認できた。
- ・各々積極的に意見を出し合って、時間いっぱい議論できたと思うから。
- ・各専門職の意見を聞いた。自分の苦手分野だったので思いこみや先入観が先立っていましたが、MSWさんの話を聴いて大変勉強になりました。
- ・普段関わらない職種の方も交えて多角的な視点から意見を出し合えて、自分だけではわからなかったことにたくさん気づかせていただきました。

★「十分といえないが、良い話があった」を選んだ理由

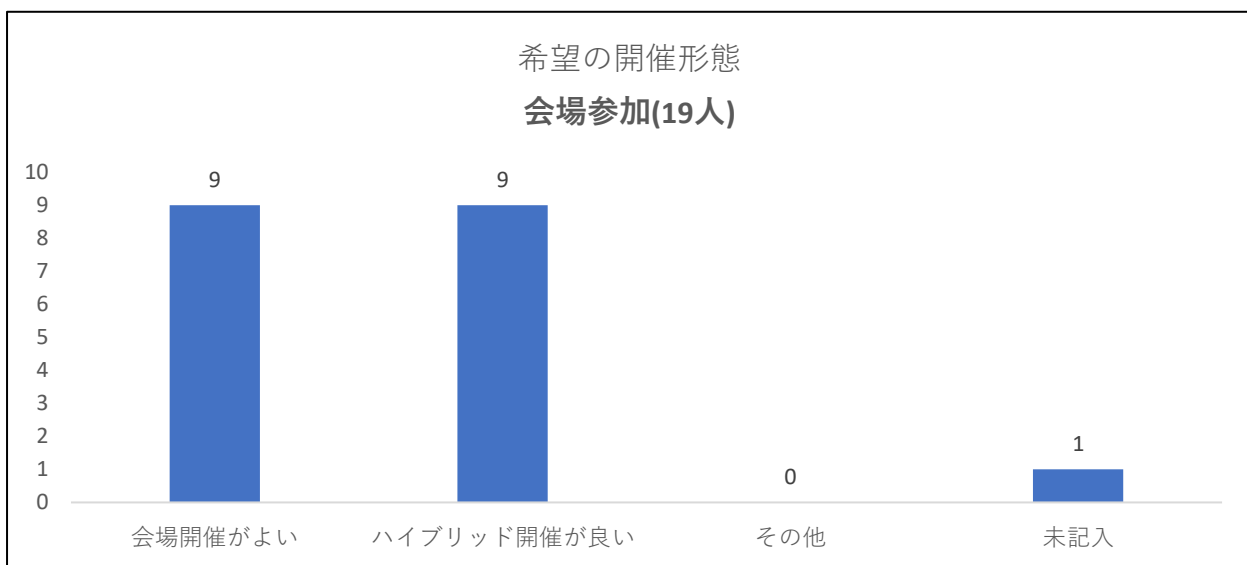
《会場参加》

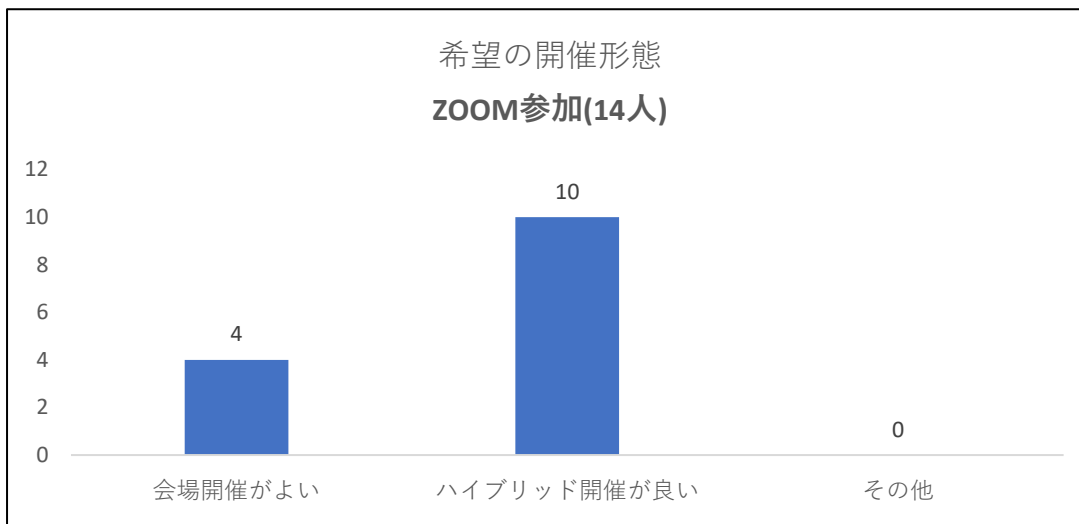
- ・事例を通して様々な意見を聞くことができたから。
- ・社会資源の少ない新見地域での生活を考えるとネガティブな意見に偏ってしまった。
- ・よかったです、これから継続することが大切だと思います。単発にならないようにしたいですね。
- ・専門の人の話を聴くことができた。障害で関わっている人の話を聴くことができた。
- ・日頃の業務の中で感じていることを話し合えることができた。
- ・自分自身の知識が不足していたのであまり意見が言えなかった。グループの他の方の経験したことや意見を聴かせていただいて学べ、参考となった。

《ZOOM参加》

- ・いろんな意見が出て良かったが、相手の声が聞こえなかったり、途中他のグループの声が入ったりして自分が混乱した。トラブルが無ければもっと意見が聞き出せたと思う。
- ・PCの不具合でミーティングに参加できない方がいて残念でした。
- ・グループワークのテーマが少し話しにくかったと思います。症状についての情報がやや足りなかったように思われます。(医師)
- ・講師の方のマイクがオンになっており、他で話をしている声が入り、グループの声が聞こえずらい時がありました。
- ・事例解決には至らなかったが、知らなかった情報知識を得られたのでよかった。
- ・障害者福祉について勉強不足のため。
- ・事例が難しかったので、それぞれの立場でできることがあまり具体的に出ず、もう少し深めたかったです。(PSW)

◆一堂に介しての研修会について





★「会場開催がよい」と答えた理由

《会場参加》

- ・デスカッションしやすいです。ZOOMは一人ずつしかしゃべれないので話が盛り上がりにくい。
- ・直接会って話すことで研修以外の情報を得られるから。
- ・顔見知りの関係を築きやすいから
- ・会場開催に賛成です。
- ・今回会場で参加して良かったからです。
- ・直接顔を合わせて話をするので、色々な話をするのができたり、関わりが持てるので良いと思いました。
- ・顔を見て話すほうが充実感ある。

《ZOOM参加》

- ・そろそろ会場で皆の顔を見る方がいいのでは。今回のように事例が配布できなかつたりするとグループワークがやりにくいから、準備も大変だと思うので、参集型に戻しましょう。
- ・顔の見える関係が良い。ZOOMは間があく時がある。
- ・顔を見て話をした方が連携しやすいし、話がより深まると思う。ZOOMだと多少のトラブルもあり得るので。
- ・ZOOMだとやはりグループワークがやりにくい、深まりにくいです。

★「ハイブリッド開催の方が良い」と答えた理由

《会場参加》

- ・新見は地域が広いので、ZOOMがあればどこからでも参加できるから。
- ・時間的に参加が難しい時に助かります。
- ・あまりたくさんになると疲れるかな。
- ・時間的に移動困難な方もいると思うので。
- ・遠方の方はなかなか集まりにくいので。
- ・まだコロナの不安もある。ZOOMの方が参加しやすい方もいると思う。
- ・利便性

《ZOOM参加》

- ・コロナが心配
- ・業務終了後に参加が困難な場合がある。オンラインだとすぐに参加することができて良い。
- ・会場まで移動する時間がないことがあるため。選択肢があると参加のハードルが下がって良いのではと思います。
- ・ZOOMもあれば移動や時間に縛られずに参加しやすいです。

- ・ハイブリッドの方が参加しやすい方もいるので。
- ・勤務上、現地参加が難しいことがある。
- ・会場までが遠い方もおられるため。
- ・仕事の都合や移動距離など考えると、2パターンあると選びやすいです。

◆次年度の研修会のテーマについて

- ・精神疾患の方への関わり方など(GWで苦手な方の意見があったので)。
- ・透析患者の支援や課題について。
- ・保健、医療、福祉それぞれの立場からの新見市の課題について。
- ・訪問診療と訪問看護、在宅服薬指導について(過疎高齢化地域と医療の関係)
- ・今回の研修を受け、自分が日々の業務の中で精神科の方や引きこもりの方との関わり方が苦手だと感じていました。関わり方や支援の仕方でうまくいったケースや困難なケース、どのような連携をするのかの事例について勉強したい。
- ・専門職の人、医師や看護師、薬剤師などの目線から介護について気づけることなど。
- ・精神科医の先生に患者さんと向き合う時のコツや心の持ち方について話を聴いてみたいです。
- ・今のテーマを深掘りしていく。リアル事例を本当に相談、カンファする。